

防災情報

風水害

防災気象情報の段階的な発表

気象情報と洪水予報

危険度	情報の種類	対象となる災害	情報の概要
低	注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪	災害が発生するおそれがあると予想される状況
中	警報	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮	重大な災害が発生するおそれがあると予想される状況
高	特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮	警報の発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている状況

危険度	洪水予報の標題(種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
低	〇〇川氾濫注意情報(洪水注意報)	氾濫注意水位(レベル2)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階
中	〇〇川氾濫警戒情報(洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位(レベル4)に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位(レベル3)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階(避難準備・高齢者等避難開始相当)
中	〇〇川氾濫危険情報(洪水警報)	氾濫危険水位(レベル4)に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階(避難勧告相当)
高	〇〇川氾濫発生情報(洪水警報)	氾濫の発生(レベル5)	氾濫水への警戒を求める段階(避難指示(緊急)相当)

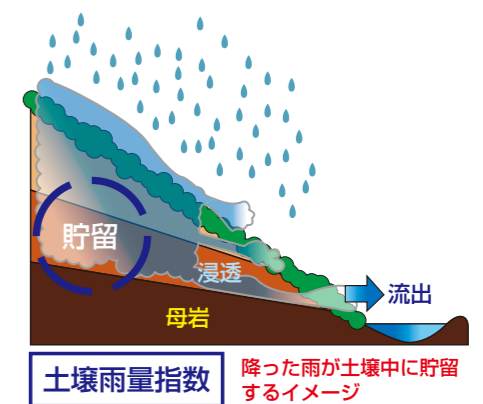
レベル4以上の情報は、国土交通省が緊急速報(エリア)メールによって配信します。

土砂災害

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに都道府県と気象台が共同で発表します。

土壌雨量指数とは、降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標です。
大雨に伴って発生する土砂災害(がけ崩れ・土石流)には、現在降っている雨だけでなく、これまでに降った雨による土壌中の水分量が深く関係しており、土壌雨量指数は、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ溜まっているかを、数値化したものです。土壌雨量指数は、各地の気象台が発表する大雨警報(土砂災害)や土砂災害警戒情報等の判断基準に用いられています。



地震

緊急地震速報

緊急地震速報は、気象庁が、地震による強いゆれを事前にお知らせする、地震動の予報・警報です。緊急地震速報が発表されてから、強いゆれが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。テレビ・ラジオ、専用受信端末、携帯電話や施設の館内放送などで緊急地震速報を知った場合は、周囲の状況に応じて、あわてず、まず身の安全を確保しましょう。

内陸型(直下型)と海溝型の違い

町内に大きな被害をもたらすと予想される断層



活断層地震

活断層地震は、地下の地盤に押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面に境に地盤がずれ動くことで発生します。

海溝型地震

海溝型地震は、海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとすることで発生します。

海溝型地震の発生イメージ



消防団の活躍

大山崎町消防団は、3分団91名で構成されており、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行います。災害発生時だけでなく、応急手当の普及指導、住宅への防火指導、火災予防運動や歳末特別警戒での巡回といった、火災予防・広報活動も行っています。

【参考:総務省消防庁HP】 <http://www.fdma.go.jp/syobodan/index.html>

